

## 27年8月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成27年 8月1日～ 27年8月10日

## 2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
8月分の回答企業数は7社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/8月	9月	10月
入荷動向	国産材	△ 40.0	0.0	0.0
	外材	△ 40.0	△ 10.0	0.0
在庫動向	国産材	20.0	△ 20.0	△ 20.0
	外材	20.0	△ 20.0	△ 20.0

・国産材ラミナの入荷は、8月の減少が9月、10月は横ばい。外材は8月、9月の減少が10月は横ばい。

・国産材及び外材ラミナの在庫は、8月の増加が9月、10月は減少。

## (2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/8月	9月	10月
国産材	△ 12.5	△ 12.5	0.0
欧州材	12.5	12.5	12.5
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの購入価格は、横ばいで推移。欧州材はやや強含みで推移。その他は横ばい。

## モニターからのコメント

## (ラミナ荷動き)

・スギラミナの入荷量を制限しているため、入荷は前月同様横ばい、在庫も横ばい。カラマツはラミナの発注量に対し、入荷も順調で、8月は稼働日が少ないため、在庫量はやや増加の見込み。  
・入荷は、特に変動はない見込み。在庫は入荷を抑えているため減少。  
・契約数減（調整）のため入荷減。

## (ラミナ価格動向)

・スギの原木価格は下落しているが、在庫丸太の価格が以前の高値玉であるため、ラミナ購入価格は横ばい。カラマツは8月より北海道意産ラミナのみ、若干値下げをした。  
・為替相場の影響が大きいため、為替次第。

## 27年8月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

## (3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/8月	9月	10月
生産動向	国産材	△ 16.7	16.7	16.7
	WW集成管柱	△ 33.3	0.0	0.0
	RW集成平角	△ 20.0	10.0	10.0
	米マツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	△ 16.7	8.3	16.7
	WW集成管柱	△ 16.7	16.7	16.7
	RW集成平角	0.0	20.0	20.0
	米マツ集成平角	△ 75.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材集成材の生産は8月の減少が9月、10月は増加。WW集成管柱は8月の減少が9月、10月は横ばい。RW集成平角は8月の減少が9月、10月は増加。米マツ集成平角は8月の減少が9月、10月は横ばい。

・国産材及びWW集成管柱の出荷は8月の減少が9月、10月は増加。RW集成平角は8月の横ばいが、9月、10月は増加。米マツ集成平角は8月の大幅な減少が9月、10月は横ばい。

## (4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27/8月	9月	10月
スギ集成管柱	△ 12.5	0.0	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	0.0	33.3	33.3
RW集成平角	0.0	10.0	20.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	—	—	—
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキ及びカラマツ集成材の出荷価格は、スギ集成管柱の8月の弱含みを除いて、保合で推移。

・WW集成管柱及びRW集成平角は、8月の保合が9月、10月は強含み。

・米マツ集成平角及びカラマツ集成平角は保合。

## モニターからのコメント

## (構造用集成材荷動き)

・8月は稼働日が少ないため、生産は前月同様と見込む。9月以降、製品の値動きも若干回復傾向にあると思われる、生産はやや増加。出荷は、各プレカット工場が徐々に稼働率が上がってきている事もあり、引き合いは増加傾向。災害公営住宅も本格化するが、夏季休業があるため大きな伸びは考えられない。9月以降は、引き続き災害公営住宅を中心に一般住宅も回復傾向と見込まれる。秋～冬にかけては各地で非住宅の建設が始まる予定であり、かつ、地域産材を採用する物件も少なくな

い。  
・販売量に応じた生産。7月中旬から出荷の荷動きは良い。  
・プレカット社の受注が安定せず。そのため生産調整継続。出荷は7月微増となったが、先が分からない状況が続く。

## (構造用集成材出荷価格動向)

・スギについては、大手集成材メーカーの安値玉は、引き続き価格は横ばいとなっている。大手プレカット工場が、スギEW管柱を採用する動きがあるが、価格は値戻し出来る状況にない。当面は安値横ばいの見方が有力。カラマツは原材料の価格は横ばいで推移しているため製品価格も基本的には横ばい。今まで物件の動きが悪かったため、一部製品に値下げ要請も出ている。部材やボリュームにより若干の調整はしているが、原材料の高止まりの影響で値下げに対応出来る商品は少ない。

・スギ集成管柱は弱含み。  
・9月から値戻しを図る（為替の関係も含めて）。  
・価格は上げたいものの、現状からすると上げづらい。